

調和と発展

徳島大学名誉教授

河崎良行



略歴

- 1935年 徳島生まれ
- 1981年 徳島大学教育学部教授
- 1986年 徳島大学総合科学部教授
- 2001年 徳島大学退職
- 徳島大学名誉教授
- 彫刻家・社団法人二紀会評議員



国立大学の法人化がいよいよ実施されることになりました。以前からわが国の財政や少子化により大学も淘汰・再編を伴う改革が近いという感はしていましたが、このようにスムーズに実施されるとは予想外でした。

私が退職した年(2001年)には、「第三者評価による競争原理」の導入とか「法人化への制度設計」の構想などが次々と公表され、日本の国立大学はかつて直面したことのない事態となっており、退職後とはいえその状況が気がかりでした。それにしても徳島大学は、良いスタートを切ったと思います。特に2つのCOE拠点採択は世界的な質の高さを全国に示したものです。

ある学者によると、この法人化は官僚機構の影響が少ない関西の大学が長所を発揮するチャンスになると指摘していましたが、それが早くも地元徳島大学で実現しようとしていることに、感慨深いものがあります。

私は現在、NHK四国地方放送番組審議委員をしています。主に四国各局が制作した番組について話し合います。内容は多岐に渡っていますが、その中で先端技術等の紹介番組になると、やはり四県の国立大学が登場してきます。制作側に大学の研究を比較や評価をしようとする意図はなくとも、放送されると結果的に外部の評価にさらされることになり、多くの意見が飛び交います。この時ばかりは各委員の地元大学への思いの丈がよく分かります。先端技

術の開発などは、みんな関心が高く、長期の不況下であり21世紀の産業はいずれも頭脳で勝負が決まるとの考えでいるためか、大学の研究、開発能力への大きな期待が伺えられます。

10年前のことですが、建学120周年記念として徳島大学同窓会(渭水会)に依頼され設置した「コミュニケーションが総合科学部のキャンパスにあります。私が彫刻を通して大学へのメッセージを表現した「調和と発展」と題する作品です。その「コンセプトは、2つの要素をもとに構成した抽

象表現ですが、それは大学側と卒業生、または総合科学部における文系と理系など、性格を異にする2つの領域が調和して発展する姿を表現したいと考えたものです。

このたび、徳大へのメッセージを求められましたが、やはり、「調和と発展」です。ランキング方式による評価も可能な領域と、大学が本来志向している教育、研究との調和がみられる個性輝く国際的な大学を目指して下さい。更なる発展を期待しています。